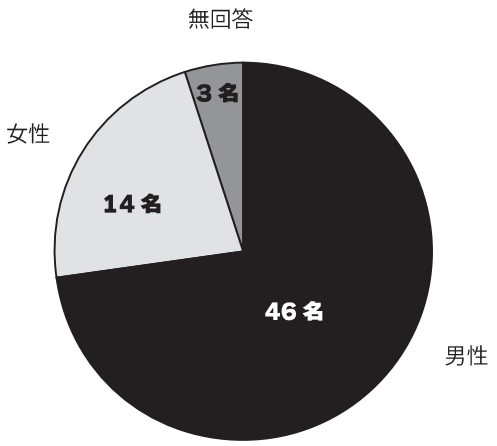
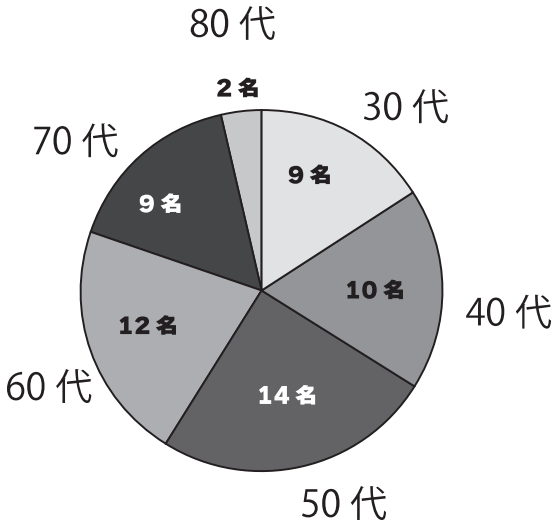
実態調査

みんなの臨床スタイル

今回、東京都鍼灸師会の会員に対し、ウェブとファックスによるアンケート調査をおこないました。
アンケート期間：2023 年 1 月 20 日～2 月 5 日

回答者の属性





編集部メンバーのコメント

金井：50 代、60 代の回答が多いので、今回の結果はベテランの回答として全体的に理解する必要ありそうですね。

岡野：20 代の回答者がゼロなのはこの年代の会員がいないということでしょうか？　会費が月割にすると 5,000 円以上なのは若い人にはきついかもしれないですね。女性の回答者が少ないのは師会全体の女性の割合が少ないということかな。

唐田：東鍼会の年代分布としてもこんな感じになるんですか？　若手がもっと増えてくれたら……。ベテラン先生たちがどんな形で鍼をされているかは興味あります。

鳥山：若い会員さんが少ないのがちょっと寂しいですね……。

気になる！みんなの流派

「鍼灸の施術はどのような流派に属していますか？」という質問に対しての回答を分類しました。

現代鍼灸
（トリガーポイントを含む）
16

経絡治療
15

中医学
5

長野式
2

ミックス、流派なし
24

２種ミックス	**11**
経絡＋現代	4
中医＋現代	6
長野式＋中医	1
３種以上ミックス	**4**
流派無し	**9**

そのほか
YNSA、深谷灸法、小児鍼、奇経治療、太極療法、経筋治療、刺絡、耳鍼など

編集部メンバーのコメント

金井：東鍼会は流派に関係なく所属しているので、もっとミックスの方が多いかと思っていましたが、意外と自分の基礎となる流派を活用して治療している方が多いようですね。

岡野：経絡治療の方が中医学よりも多いですね。現代鍼灸を一緒にやるという回答をみると、仕上げに局所を筋や神経系を考慮して施術したり経絡治療の標治法を現代鍼灸の考え方でやっていたりと、そういう応用をしているのかなと想像しています。

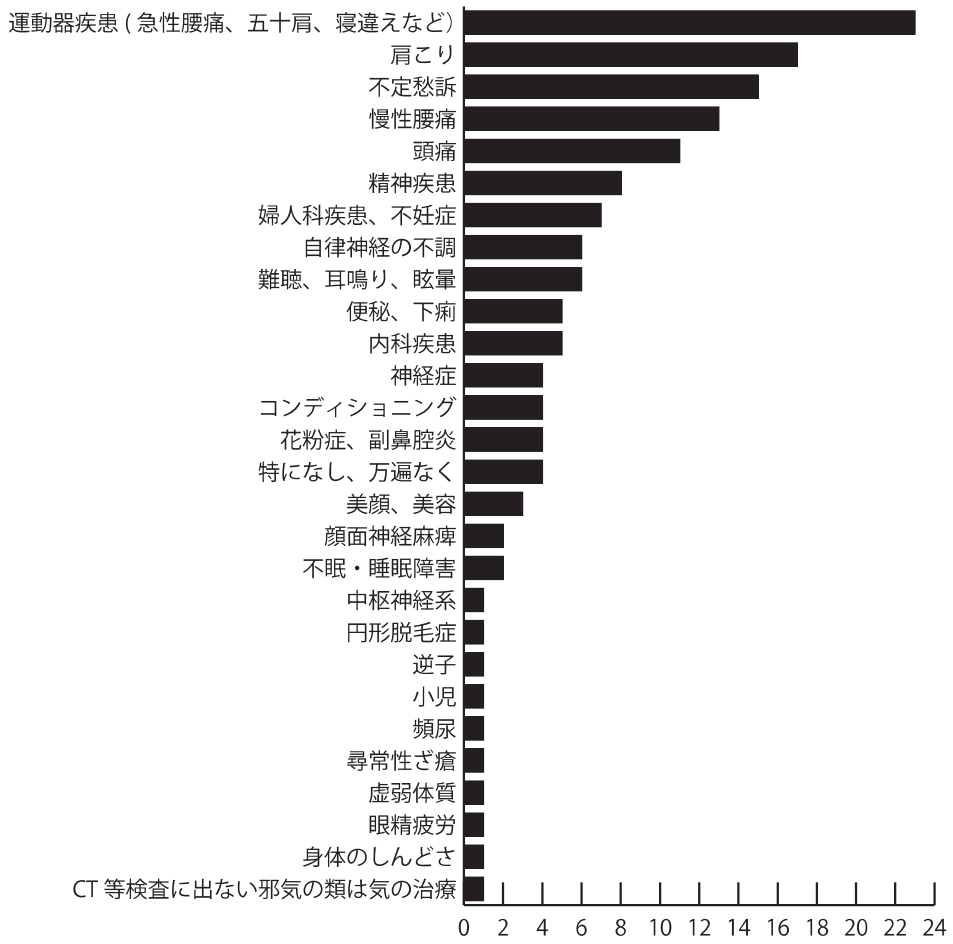
唐田：私は思ったよりも中医の先生が少なく、経絡と現代が多かったという印象です。いろいろとミックスで患者さんによって対応を変えている先生が多いのは業界団体らしい感じがします。長野式と中医のミックスが気になりますね。長野式で対応する場合と、中医で対応する場合とがあるということかな？　けっこうそれぞれが特徴的な臨床観を持っているはずなので、どう使い分けているのかをぜひインタビューしてみたいですね。

鳥山：積聚会や北辰会など会の結束（？）が強いところに属している方々は、業団にはあまりいらっしゃらないのかもしれないですね。

得意疾患はある？

記述式の形で回答をいただきました。運動器疾患についてはおおよそで一括りにしています。例として「肩こり」「急性腰痛」「偏頭痛」「便秘」など、と示されていました。

全60件の回答、のべ140以上の得意疾患例をご入力いただきました。10例以上あげられる方もいれば「特になし」という方もおり、大変バリエーションに富んだ回答でした。



金井：鍼灸の適応疾患の幅広さを改めて感じました。

岡野：運動器疾患以外は不定愁訴に入れ込めるものがほとんどですよね。ということは、以前から言われているとおり、鍼灸が得意なのは運動器疾患と病院で診断がつかないような不定愁訴という傾向はここでも示されているように思います。

唐田：いろいろあるけど、やはり運動器疾患強い！　慢性腰痛や肩こりを含めると、ほぼ皆さんが選択されてるようです。小児や頻尿などは特にそれを「自分の強み」として挙げていると思いますが、どんなやり方・見立てで施術をされているか気になります。

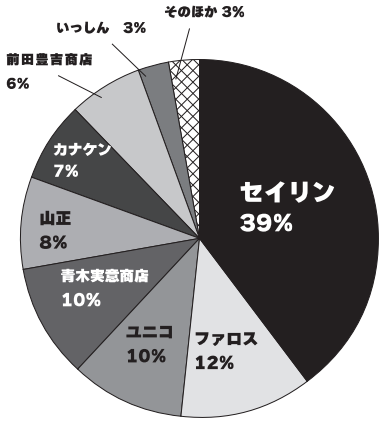
「CT 等検査に出ない邪気の類は気の治療」というのが、この先生の臨床経験を物語るよう。これもインタビューしてみたいです。

鳥山：鍼灸は幅広いニーズを受け入れているのがわかりますね。鍼灸の保険適用できる疾患も増えると良いなと思います。

唐田：セイリンさんのシェアはさすが！　もう少しほかのメーカーさんに寄るかと思いましたが、「とりあえずセイリンの鍼は持っているけど……」という先生が多いんですね。

岡野：おそらく１つのメーカーさんだけの鍼を使っている方は少ないのではないかな？と思います。金鍼、銀鍼、てい鍼などの特殊な鍼に関しては青木実意商店さんかもしれないですね。

鳥山：専門学校や大学でも使い慣れたものをそのまま使う人が多い気がします。



鬚眉の鍼メーカー

使用する毫鍼の番手は何種類？

使用する毫鍼の番手は平均「5.7 種類」（最少 1・最多 30）

表以外に「長柄鍼（8 分 1 番 ）」2 件、「豪鍼を使わない（てい鍼のみ）」も 1 件ありました。

番手		03	02	01	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鍼体長	5分（15mm）	**5**	**5**	4	2	2	1									
	1寸（30mm）		**15**	2	13	6	4	1	4					1		
	寸3（40mm）		2	7	**37**	24	20	5	7			1				
	寸6（50mm）				3	11	**32**	3	13			2				
	2寸（60mm）					1	9	1	**22**	1		7		1		
	2寸5分（75mm）							**2**	**2**							
	3寸（90mm）							1	**13**	1		5				1
	6寸（180mm）								**1**							
線径（mm）		0.1	0.12	0.14	0.16	0.18	0.2	0.23	0.25			0.3		0.35		

※番手や線径、鍼体長は、メーカーによって異なる場合あります。参考値としてご覧ください。
※太文字は、各々の長さで使用数が多いものを示します。

金井：自分の使用している鍼をみんなも使っているのかわかるのが画期的！　ぼくは 1 寸 02 番をよく使いますが、15 回答あり、ほかの方もそこそこ使われていることがわかりました。

唐田：東京医療専門学校に通っていたころ、セイリン製の 1 寸 3 分 1 番と 1 寸 6 分 2 番のを授業で使っていた名残で、今でも 2 番は 1 寸 6 分をよく使うんですが、それは意外と少ないことに驚いてます。思ったより 5 番を使う先生が多いのが印象的。長さも 30㎜～ 180㎜！

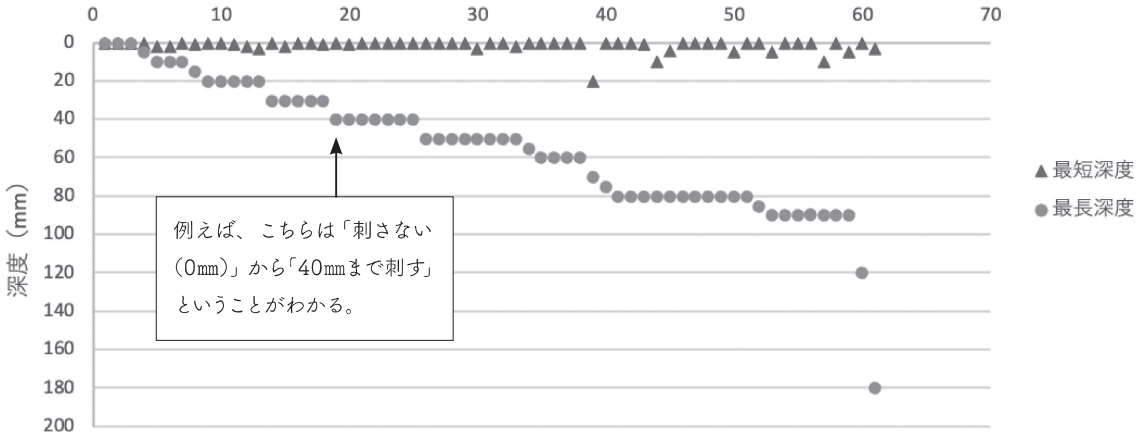
岡野：1 寸 3 分 1 番、1 寸 6 分 3 番は私もよく使います。長さの幅が一番広いのが 5 番鍼なんですね。灸頭鍼や強めの刺激を必要とする際など太めの鍼を使用しますがそのためでしょうか。これは予想外でした。

鳥山：私もいろんな患者さんに合わせられるよう番手の種類は揃えておきたいですが、やはり使用頻度が高いのはアンケート結果と同じですね。

どれくらい刺入している？

アンケート回答者、一人ずつの刺入深度比較表

横軸の１メモリが一人が扱う最短深度（▲）と最長深度（●）を示しています。



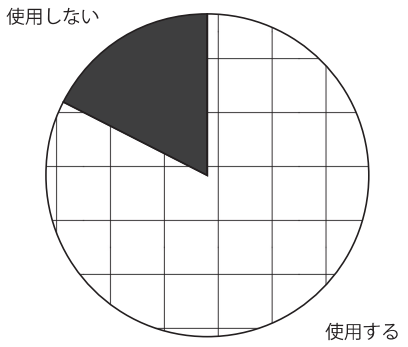
金井：刺入深度のバリエーションもさまざまで、治療法の多様性が深度にもよく表れていますね。

唐田：先生方の臨床スタイルの違いがかなりはっきりしていて、とても面白いグラフですね。刺さない先生がいる中で、最短でも 20mm入れる先生も！　120mm・180mmの鍼って、どこにどんな打ち方をしているんでしょう？　深さだけど、さすがに「横刺で背部兪穴を上下に貫く」とかかな……。

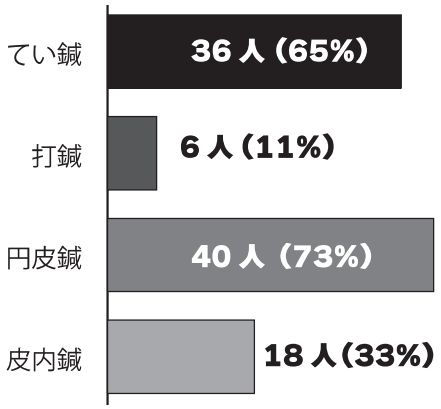
岡野：接触のみでの施術の方から 180mm 刺入する方までいらっしゃいます。治療する上で、各々得意な深さがあるのかな？と感じました。浅い部位の邪気に対する治療が得意な方もいれば深い部位の邪気に対する治療が得意な人もいるのかな、と。

鳥山：0mmは接触鍼やてい鍼を使うということですよね。

毫鍼以外の鍼は使う？



毫鍼以外に使う鍼



そのほか

ローラー鍼、三稜鍼、かつさ、小児鍼（米山式など）、集毛鍼、長柄鍼、バネてい鍼、梅花鍼、粒鍼

鍼以外

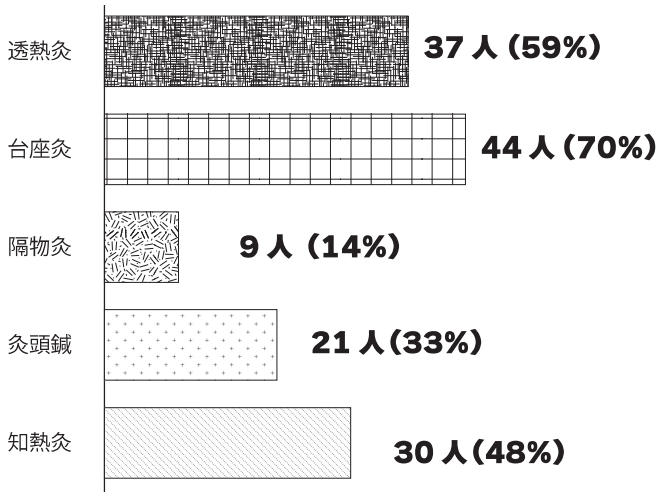
マグレイン、ランセット

金井：豪鍼しか使わない方は、患者層や対象疾患を専門特化してるのでしょうか。

唐田：円皮鍼や皮内鍼を除いて設問を作るともっと面白くなったかもしれませんね。

岡野：毫鍼以外の鍼を８割強の方は使用していますね。

お灸について



そのほか

- 棒灸
- 電気灸、電子（電気）温灸
- 炙り灸
- 棒灸カバー
- 箱灸
- 竹灸
- 使用しない
- そのほかの温熱療法

金井：透熱灸の割合が思ったより高いですが、これはやはりベテラン回答者が多いからなのでしょう。

唐田：透熱灸が意外に多いですね！　台座灸は予想通り。これ、皆さんどこのメーカーの台座灸使っておられるんでしょう？「ここのコレは使いやすい！」など聞いていても面白かったかも。個人的に、ユニコさんのらくらく灸は使いやすいと思ってます。あと棒灸だとトワテックさんの自社ブランドの棒灸は香りがよくて好きです。

岡野：透熱灸はいろんな目的で使える方法ですのでやられている方は多いですね。台座灸は筒の形状のものもあるのでどちらの方が多いのでしょうね。私はらくらく灸と長生灸を主に使っています。

鳥山：私はむしろ台座灸の割合が多くて意外でした。

アンケートから見えてきたもの

前号の特集『ベテラン×若手座談会』でも話題になりました「どのようなスタイルで鍼灸を業としているのか」について、臨床、経営の2つの視点からアンケート調査をさせていただきました。

今回は臨床についてのアンケート結果を掲載していますが、会員の皆さんの臨床スタイルを垣間見ることができる非常に有意義な結果になっていると思います。

「流派」「使用する鍼の種類」「刺入深度」「得意疾患」のアンケート集計をみると、多くの鍼を使用している方や、逆に少ない種類の鍼で治療に臨んでいる方、全く刺入せず接触のみで施術を組み立てている方、80㎜以上刺入する方もいます。これには日本鍼灸の奥深さを、そして数多くの得意疾患の種類をみるとその懐の深さも感じます。

お灸については、台座灸だけでなく透熱灸をおこなう割合も50％を超えており、灸施術の需要の高さと先生方の臨床レベルの高さを表していると思います。

気になるのは、女性の回答者が少なかったこと、20代の回答者がいなかったことです。今後の当会の課題として、女性や若い会員を増やすための取り組みをしていく必要があるのかもしれません。

会員全体を対象とした臨床スタイルに関するアンケートの実施は、ここ数年では初の試みでした。予想通りの結果もあれば、予想外の発見も少なからずありました。皆さんはどのように感じられたでしょうか？

経営に関してのアンケート結果は、次号以降誌面で掲載していく予定です。

（編集部）